

第3回総合計画策定審議会（2/17開催） 質疑応答 全文

【資料1について】

Q 委員

1点要望です。ご説明ありがとうございました。5ページの所に、「持続可能な開発目標（SDGs）との一体的な推進」ということが書かれてあります。大変重要なことだというふうに思っております。国連が2015年、2016年に提唱して、そこで、各国で、各地域で取り組まれていることかな、と思います。

例えば地球温暖化に対応する意味でも、この10年、2021年から2030年までのこの10年間は、ポイントオブノーリターンというふうに言われています。取り返しの付かないこの10年間だという意味合いで使われていますけれども、そこに本町の総合計画も、すっばりとこの10年間合致するわけです。

そしてこのSDGsとの一体的な推進といった意味では、もうちょっと進めてですね、一步二歩進めて、これをやるっていうほどの町村でも同じなんでしょうと思います。だからこそ岩内町が一步二歩リードして岩宇あるいは後志、そういう地域をリードする、そういう施策に打って出ることによって岩内町のイニシアティブを発揮できるんじゃないかなと、そんなふうに思っております。いろんな切り込みからまちづくり、町の発展というところに行けるんだと思うんですが、ここがひとつ大きな視点になるんじゃないかなというふうに思っております。

いろんな産業の振興発展というところはもちろんだと思いますけれども、そことリンクさせる中で進めていく、産業も一次産業、二次産業、三次産業とありますが、今、6次産業と言われてますよね。いろんなものを組み合わせる中で発展させていく、そういう視点も大事じゃないかなと思って、ご提案といいますか、要望を出した次第です。どうぞよろしくをお願いします。

A 事務局

ありがとうございます。ご要望という形で承りました。SDGsに関しましては、如何せん世界的な、官民間わず目標とする開発目標であります。我々としたしましては、より地域に落とし込んで、我々行政も含め、町民の皆様も一人一人が何ができるかというところまで、後ほどになりますが基本計画の中でもその辺を示していければと思っています。

日々の暮らしの中でもできるアクションといいますか、そういうところとSDGsの個別の目標を読み砕くといいますか、より我々の生活の中に落とし込んでいければというふうに考えております。ご要望、ご意見ありがとうございました。

Q 委員

計画策定の背景の4ページになるんですが、6番目の「新しい生活様式『北海道スタイルの確立』」という部分で、これが間違いだとか、現時点ではおそらくこの1～2年、もうちょっと長くなるかもしれないですけれども必要な部分、背景としてあるんだと思います。

ただ、今、総合計画として10年間の計画の中で、果たしてこれが10年間通した背景になるべきなのかな、というか、べきというかここは難しいと思うんですが、ただ反対にもしこれが背景だとして、きっちり捉えられるとすれば、これからの計画の中に文言としてどういう形で反映されるのか、ということが求められるような気がします。

ですからある意味でこの文の部分をもう少しこう、簡潔というか、今時点での背景であることは間違いないですけど、これが本当に総合計画の10年間という中で位置づけられるべきなのかというのは、ちょっと私としては、少し疑問に思う部分があって、むしろ経済的な背景のほうが、より認識していかなければならないというか、そういう部分が望ましいのではないかな、と思ったので意見を言わせていただきました。

A 事務局

ありがとうございます。委員の仰る通り、確かに現時点でのことであります。計画策定の背景ということで、10年先これがそのまま同じ状況かといいますと、そうではないと考えております。

ただ、前計画におきましても、策定時の時点での時代背景をしっかりと捉まえて記載させていただいている経過があるのと同時に、やはりこのコロナ禍における世の中に与えた影響というのは非常に大きいものと捉えておりますので、ちょっとここでは書かさせていただきました。

仰る通り、10年後これがそのまま残っているかというところとちょっと違うと思いますので、5年間、前期後期の中でもこの辺はどんどんと変わっていくのかなと。併せて、ICTですとか、高度情報化も、10年先また全く別の状況になっていると思いますので、まずは現時点での計画策定の背景という形で捉えていただければと思います。

Q 委員

今のことについて、現状の認識の中でこの文を出した、というのは間違いじゃないと思うんですけど、ただ、いろんな商売といいますか、そういうことについても、要は密集だとか密接、密閉というのは一つのポイントだと思うんです。ここでこういうふうにかかれちゃうと、新しいスタイルというのはこれを全部3密を避けるのかという問題も出てくるのかなと、それは決して、商業とかそういうことにおいては、決してプラスじゃないだろうと。

今はこの部分は大切な部分だと思うんですけど、実際にこの部分を除いてそれぞれの商売、そういうものが成り立っていくのかなと、というような気がするんです。その部分で非常に難しい書き方にはなるだろうと思うんですけども、ちょっとその辺を工夫していただければなという感じがします。

A 事務局

ありがとうございます。仰る通り、ビジネスについても、おそらくイベント等についてもそれが当てはまってくるのかなというふうにお察しました。表現についても、もう少し柔らかいトーンですとか、工夫をしながらこの書きぶりは調整といいますか、させていただきたいなと思います。ありがとうございます。

【資料2について】

Q 委員

大変興味深い資料でした。アンケートがまず町民のアンケートなのですが、1,500名を対象にというところで、アンケートの住民の属性がちょっとよくわからなかったのも、男性女性、何十代の人に何人、というのがちょっとわかりにくいのかな、という気はしました。

それともう1点が、岩内町の住み良さなのですが、おそらく岩内町民の方にアンケートを取っているかと思うので、基本的には住んでいるので、おそらく住み良いと思っているから住んでいるんじゃないのかなという気はするので、それが果たして住み良さを語るうえで正しいアンケートの取り方なのかという気はしたので、移住者なのか、そもそも住んでいる人なのかといったところのアンケートを分析すると若干良いものが見えてくるのかなという気がしたので、その2点だけお願いします。

A 事務局

ありがとうございます。アンケートに関するご質問でございますが、第2回の時に、より丁寧に説明させていただいたのですが、アンケートは1,500名を対象に無作為で抽出しております。町内、男女については同じ比率になりまして、さらに年齢も同じ比率になるように、岩内町の住民基本台帳から無作為抽出して送付していることをまずは申し添えます。

さらに住み良さの部分、元々住んでいる方なのか、移住者向けなのか、その辺につきましても、今後やはりそういった特に移り住んできた方からのご意見というのは非常に大事な部分だと思いますので、今後アンケート等実施する際に参考にさせていただければと思います。

Q 委員

まずは本日オンラインでの参加をお許しくださってありがとうございます。ちょっと思ったのが、町の弱みだとかの部分があるんですけど、例えば②の「経済・産業に対する町民の声」だとかの町の弱みで、「一次産業の担い手が不足している」という点があったり、「住居一体型の空き屋店舗が多く、店舗の継承が困難」とかそういった点が挙げられているんですけども、まずその根本的な、どうしてそういう背景になっているのかという理由というのを、もう少し深掘りしなければ解決というところに結びつかないのかなという気はするので、もう少しこの弱みだとか、合わせて強みもそうだと思うんですけど、深掘りしていく必要があるのかなというふうにはちょっと思いました。

A 事務局

ありがとうございます。音声は聞こえていますね。ご意見ありがとうございます。仰る通り、町の強み弱み、今回各分野においてまずはアンケートの結果とワークショップの結果の中から一覧にさせていただいております。

ただ委員の仰る通り、その原因ですとか、解決に向けてさらに進めていくためには深掘りというのが本当に大事なことかと考えております。その辺が次、基本構想、基本計画とフェーズが移っていく中で、具体的な施策は何なのかというところにその辺を活かしていけれ

ばなど考えております。

Q 委員

質問とかではないんですけれども、ちょっと気になった点が1点ありまして、町民アンケートの結果の中で、岩内町の住み良さ、それからですね、行政サービスの満足度、共にポジティブな評価が70歳以上、で、一番ネガティブな評価が40歳代、というところが非常に気になっておりまして、子育て世帯だったり働き盛り世代っていうところが一番不満を持っているところ、今現状の問題点をすごく端的に表していると思います。

で、こういった部分っていうのはかなりこう、危機的な部分でもあったりするので、今後の基本構想、基本計画と、策定していく上でですね、かなりこう、重要なポイントとして扱っていただければと考えます。ありがとうございます。

A 事務局

ありがとうございます。非常に仰る通りの鋭いご指摘で、我々もこの30歳代、40歳代、まあ50歳代もそうですね、ポイントが低いというところは着目しております。やはり平日働いている、女性であれば子育て真っ最中である、なかなかその時間で役場との接点が無いですとか、必要な時に役場のそういったサービスを受けられないですとか、そういった中でもこういったアンケートの結果が反映されているのかなというふうに私たちなりに分析しておりました。

そういう普段働いている方々も役場との接点を、物理的にといいますか、持てるようなサービスの展開ですとか、情報の提供というのが今後必要なのかなというふうに考えておりますので、非常に、ここに向けた発信というのは、本当に、拡散もするような世代だと思いますので、より力を入れてやっていきたいと考えております。

【資料3について】

Q 委員

ただ今、事務局の方から出た、ちょっとこれだとわかりづらいんじゃないかという、正に実はですね、事前に資料をもらった時に、目を通したときに思ったことがそれでして。

例えばこの基本構想、基本計画。基本計画くらいまでが今後例えば完成した時にですね、こういうふうになりましたということで町民向けの資料として配布されるのであれば、この基本構想だったり基本計画だったりという呼び方はさておきですね、その内容の文言については、ちょっと今のままだと抽象的すぎるんじゃないかと思いました。

より具体性のある、より直感的にメッセージが伝わるような文言をもうちょっと盛り込んだほうが、これからの10年岩内はこういう方向に向かっていくんだという、希望だったりメッセージになったりすると思いますので、その辺を考慮していただけるとありがたいです。

A 事務局

ご意見ありがとうございます。ちょっと我々も少しここは悩みながら表現させていただ

いているところなので今のように忌憚のないご意見をいただければ大変ありがたいと思います。

Q 委員

まず目標1の「人をはぐくむまちづくり」というのが、何をどうはぐくむのかなという気がしているので、もうちょっと一段階具体化してもいいのかなという気はしてました。

目標2は私的にはしっくりきていて、目標4もなるほどな、というところなんですけど、目標3と5が、どうも被っているような気がしてですね、何が違うのかがわからなくはないんですけど、あんまり離れていないのかなという気はしています。

尚且つ、第2部基本構想の4ページ目の(5)「岩内町セールスプランの推進」というところですけど、セールスプランの推進と言いつつ、最後の方は「人々の関心や愛着を高め、訪れてみたい、住んでみたい、住み続けたいまちづくりを目指します。」と書いてあるので、セールスプランを推進するのに住み続けたいまちづくりを、プロモーションなのか、まちづくりをしていくのか、ここのバランスがちょっとよくわからないかな、という気はしました。

なので、目標1の「人をはぐくむまちづくり」というところの具体化と、3と5の区別性と、第3章の(5)の具体性がちょっと教えていただければなと思います。

A 事務局

ありがとうございます。仰る通りのところが実はありまして、次の説明になりますが、基本計画の部分、それぞれ目標を掲げているのですが、ここがですね、実際基本計画が5つの目標があって、中を見ていくとやるのが、個別具体の基本施策とかが入ってきて、あ、ここは子育ての部分なんだな、ここは医療の部分なんだな、というのが明確になってくるんですけど、それぞれに掲げている目標というところが、やはり先ほどもありました通り、ちょっと抽象的な表現になっております。なので我々としても、この目標に少し枕詞が必要なのではと考え、4ページにある表現、ワンフレーズを入れさせていただいたのが、実は経過になっております。

答えになっていないかもしれませんが、この(5)の「岩内町セールスプランの推進」というところもですね、仰る通りプロモーションなのか、内在的なまちづくりの話なのか、というところなんですけど、やはり住んでいる人が自分の町に誇りや愛着を持っていないければ外に対して発信できないよね、というところが根本にあるので、こういう表現になってしまった、というところでご理解いただければと思います。

Q 委員

多分散々皆さん言って、ちょっと聞き取りづらかったところもあって、同じ事を繰り返したら申し訳ないんですけど、抽象的すぎるというのは私が目を通させていただいたときにも思ったことではあるんですけど、例えば(1)だったら、子どもから高齢者まで、これに関してはどういうふうにやっていくのか、また移住促進とかそういったもので人づくりっていうのを対外的にやっていくのか、それとも挑戦しやすい環境作りっていう意味では補助を増やしていくのか、サポートプログラムをどういうふうに展開していくのかとか、もうち

よっと客観的にしっかりとその言葉がすっと入ってくるような、そういうふうにもわかってるんだというゴールが見えない限りは何のことを言っているのか全く分からないというのと、(3)についてもそうなんですけど、地域を支える経済力というのも、一次産業のことを言っているのか、今観光を押ししていきたいというところでは観光のことを言っているのか、それぞれ棲み分けがもうちょっと出来ていればわかりやすいのかなというふうに思いました。

A 事務局

ありがとうございます。仰る通り基本構想の中で具体的個別的なところまで表現しきれないと言いますか、なかなかそこで表現するのは難しいのが実は基本構想の部分であります。

具体的には次の説明になりますが、基本計画に入っていきますと、個別の具体的な施策が名称としても出てきますので、基本構想の部分はちょっと正直そこを書き切れない分野でもありますので、その繋ぎどころとして捉えていただければ、次に基本計画に入ったときに個別具体の各施策が出てくるというふうにご理解いただければと思います。

Q 委員

書く限りはやらなきゃいけないという、そういう責任が伴ってくると思うので、その際にはもっと一歩踏み言った表現が必要なのかなと思うので、発言させていただきました。

【資料4について】

Q 委員

どれも素晴らしいまちづくりだと思うんですけども、私は海洋水って今どのような事業をやっているのか、ちょっとお聞きしたいと思います。

それとですね、今、聞いた話によりますと、看護師が足りず、そういうような助成を町の方でしていただけると、看護師さんも増えて、他の方には行かないんじゃないかなと思います。その2点です。よろしくお願いします。

A 事務局

ありがとうございます。私の方からお答えさせていただきます。深層水、町の海洋深層水につきましても、現在地場産業サポートセンターという施設が大浜にございまして、そこで深層水の活用、まずは岩内の市場の水揚げしたときに鮮魚を洗うですとか、さらに地場産業サポートセンターに別の町からホタテや貝類を輸送する車が、ホタテの鮮度を守るために水をわざわざ岩内で一回入れ替えて海外に輸出したりですとか、さらに地元の商品に海洋深層水、豆腐ですとかパンですとか、こういったものに活用されております。

さらに先日新聞にも報道されたんですが、今後新たなサーモンの養殖なんかに地場産業サポートセンターで海洋深層水を活用していく研究がこれからスタートするところとなっております。

次に医療従事者、看護師に関するご意見だったと思うんですが、我々の部署としましては、実はもう制度としては期限が切れてしまったんですが、平成29年、30年、令和元年の3年間、移住者に補助をしておりました。その時に若年層の専門資格を持った方、特に岩内協会病院の看護師さんなんかはわざわざ移住して岩内に来て看護師として勤めていただいて、その家賃を我々が補助するという制度をやっていたんですが、そのときは割と専門職の若い方が移住者として町に来てくれた実績があります。残念ながら現在家賃補助の制度は終了してしまったので現状はちょっと厳しい状態なのかもしれません。

A 事務局

私の方から若干補足させていただきます。委員からの看護師の補助の部分に若干補足させていただきます。

確かに今、これは岩内だけではなくてですね、やはりこういった地方の部分については、まず常勤医がない、それに輪を掛けてですね、お医者さんをサポートする看護師さんの数がかかり減ってきております。看護師さんになられる方はいらっしゃるんですけど、やはり高度な医療の現場を見たいとか、そういった希望があって都会、都会の方に流れていくのが実情でございます。

また、看護師だけじゃなくですね、うちの町ではいろいろ高齢者施設等々ございます。そういったヘルパーさんですとか、介護士さんの人材不足、看護師だけじゃなくそういった福祉の部分の人材の部分もかなり地方に流れてこない状況になっています。そういった中で、国の方もそうなんですけど、今介護保険の計画をいろいろ改定させていただいております。そういった中でやはりヘルパーの部分ですとか、介護職の部分につきましては、そういった人材をやっていきましょうといった部分、そこを主体的に計画に盛り込みましょうよということを今介護保険の担当の方で計画に盛り込んでいるところです。

また、委員の仰る通り、看護師の部分については、非常に難しい問題、岩内だけではなくてですね、北海道、または日本全国の地方の病院の共通の問題でございます。この部分につきましては町としても十分認識しておりますので、そういった関係部署には強く強く要望しながら、岩内町だけではなかなか要望しきれませんので、全国町村会ですとか、市長会ですとか、知事会ですとか、そういったところとタッグを組みながらですね、そういった補助制度の要請という形では一生懸命やらせていただいています、ということをまず補足したいと思います。

Q 委員

5項目あると思うんですけど、全部5項目一気に行く感じなのかちょっとわからないですけど、まずちょっと目標1の「人をはぐくむまちづくり」を見ていたんですけど、この中で先ほどちょっと具体性が欠けるんじゃないかなという気はしてましたよね、という議論があったと思うんですが、ぱっと見目標1の中身を見ていくと、おそらく子どもをどう成長させるかというのが主な内容なのかなという気はしています。2ページ右上の「出会い・結婚・出産しやすい環境づくり」以外は、ほぼ子どもがどうやって育っていくのかということだと思っと思うんですね。

で、この町民アンケートの方も子どもを良く育てたい、基礎学力の向上とか情報教育、外国語、学校施設の充実等々、子どもを育成するまちづくり等あるので、これはそもそも子どもをどう育てるのかという目標を掲げた方が、町民のニーズにも答えられるし、今後のまちづくりの一つの目玉としては、このように目標を掲げるのならばですね、「人をはぐくむ」よりは「良い子どもを育てる」とか、子どもを育てる環境は整ってますというまちづくりをしていった方がなかなかいいのかな、と。

まあ皆さんご存じの通り、芸術も、非常にこの地域は芸術もですね、大変注目を浴びているそうなので、この辺りも含めていくと、環境はそろっているし、町としてもここに力を注ぐのであれば大変良い機会なのかなという気がしましたので、私から意見です。

A 会長

名前を変えた方が良いという意見でしょうか。

Q 委員

どこを見据えていくのか、ですね。これがそもそも学校教育のことを言ってるのだったら、名前を変えてその方向に向かっていった方が、非常に端的でわかりやすいのかなと。

「人をはぐくむ」って言ってしまうと、子どもたちだけじゃなくて、ビジネスパーソンを育てるのか、その辺もぶれてきちゃうのかなという気はするんですけど、そもそもの方向が教育の方ばかりであれば、教育に力を注いだ方が。

ビジネスはもはや活気溢れるとかのところでちゃんと盛り込んであげた方が良いのかなという気はします。

A 事務局

ありがとうございます。委員の仰る通り、よりこうターゲットを絞って、子どもって言いたいところは確かに我々もあります。ただこのジャンルでいきますと実は子どもだけではなくてですね、生涯学習の部分も入ってきたりも実はしている、ただメインは子どもというのが委員の仰る通りです。

表現の仕方ですとか、その辺はよりわかりやすさを求めていきたいんですが、ここでいう基本計画の中には出産のフォローであったりですとか、幼児教育、保育の充実、さらに学校教育、その後の生涯学習というところまで一生学習の部分が含まれている部分でしたので、「人をはぐくむ」という表現にさせていただいております。

ただ仰る通り、より絞った方がというのは本当に理解できますので、貴重なご意見として受け止めさせていただきます。

Q 委員

おそらく生涯学習も「生涯活躍するまちづくり」に盛り込んだ方が、たぶん結構バランスは良い気はします。

Q 委員

資料の一番最後の4の目標5で、「魅力あふれるまちづくり」で、かなり地域おこし協力隊をフィーチャーしている内容になっていると思うんですけども、私の聞いたところでは、地域おこし協力隊の移住促進の方が、自らですね、移住のオンライン相談窓口というのをブログ上に設けて、そこから相談を受け実際に岩内に移住をしてくる人が出てきたということをお伺いしています。

その中で、地域おこし協力隊っていう、その枠の中で皆さん自主的に発信したりとかを頑張っていると思うんですけど、もう少し実際その町の発展に寄与しているということもありますし、町として彼らがもうちょっとこう、ちょっと今正直に言うと過小評価されている傾向にあるというふうに私は肌感で感じているんですけども、輝ける場を用意してあげたりですとか、派遣していったりとか、地域の小中学校高校のイベントにももう少し派遣してあげたりとかということで、地域間のコミュニケーション、あとはここにも書いてますけど、地域おこし協力隊が来たことによって機運の醸成というのも実際に起きてることだと思うので、もう少しそういったところに関してサポートしてあげる仕組みがあったらいいのかなというふうに思いました。地域おこし協力隊からは私は何も依頼されているわけではないので、そこら辺をちょっと考えていただければなと思います。

A 事務局

委員ありがとうございます。地域おこし協力隊につきましては我々企画部門で実は窓口となっている経緯もあります。現在7名の隊員がそれぞれの分野で活躍してくれているんですが、特に移住定住の窓口の隊員につきましては、我々席も一緒に日々一緒に活動しますので、本当に感謝しているところです。

協力隊員に我々が求めているところは、役場職員には出来ない視点、出来ない分野を積極的に取り組んでいただきたいというところが、協力隊に願うところであります。

そういった意味では、ブログもそうですし、ブログの検索のアクセス分析ですとか、元々そういうところに長けている人材ですので、日々、どこからアクセスがある、どこから注目されているというのを分析しながらブログの構成もやってくれています。

さらにこのようにオンラインを活用した移住相談のケアも休日なども含めてやってくれていまして、非常に注目は集まっているのかなと感じております。

協力隊員をきっかけに、情報発信の数も増えており、注目を集めていますので、このページで謳っているような、注目を持ってくれた方が関係人口、岩内のファンに、それが協力隊員がきっかけ、というのが良いと思うんですよ。人をきっかけにその町を知りたくなる、その町に行ってみたくなるというようなプロモーションを続けていければなと感じているところです。

協力隊も喜ぶご意見だったと思います。ありがとうございます。

Q 委員

何点かお願いいたします。最初の例えば1ページ2ページのところの目標1のところ、先ほど他の委員の方からもご指摘がありました、例えば「人をはぐくむまちづくり」という

ところでは学校教育が中心になってますよね、というところを言っていただきました。事務局の方からは生涯学習も含めてというところで考えているんです、というところで、論点整理できたのかな、というふうに思うんですね。

で、このように SWOT 分析で戦略の方向性というふうに言っているわけですから、例えばこの「人をはぐくむまちづくり」では、こんなふうに進めていくんだよ、ということがはっきり分かるような形だと尚々良いかなと思います。

SWOT 分析ってなかなか一般的じゃないじゃないですか。これを見て「そうそう」って分かる人ってそうそう居ないと思うんですよね。例えば①の「成長戦略」から右下の「回避戦略」に至るまで4つありますが、では例えばどこを重点的にやるの？どこを優先してやるの？というふうな観点で見ちゃ駄目なんですかね。

そんなふうにしたら網羅的にやっていくのか、並列してやっていくのか、それとも優先順位をつけてやっていくのか、というところも知りたいなと思いますし、例えばこの目標1では、4つのマスには6項目入っています。ところが、4番目「持続可能なまちづくり」目標4のところでは20項目あります。かたや6項目のものと20項目のもの、「じゃあ町としてはこの目標4をウエイトを置いてるんだな。」と思っていいのか違うのか、そんなところも知りたいなと思いました。

また、ここで書かれている最初のところに戻りますけれども、例えば最初の「①学校教育の充実」というところを事務局の方からも丁寧に説明をいただきました。学校関係者としては非常に喜ばしいことではあります。ただ、学校教育といっても、結構広いんですよ、その範疇が。の、どこをやろうとしているのか、というのが今後、今日は素案だと思いますので、今後この後に、例えば最初に出された基本施策とか、他の個別計画とか、そういうところにより細かなものとして落とし込んで出されていくっていう、そういう理解でいいのかっていうところ、何点か伺いたいと思います。

A 事務局

ありがとうございます。3点ほどご質問をいただきました。まずせっかくやった SWOT 分析、今4つの戦略に割り振りされていますが、それについての優先度についてのご質問だと思います。現時点ではこの4つの戦略、我々はフラットに考えております。ただですね、やはり強みを活かすというところはどんなまちづくりに限らず、どんな分野におきましても重要なことかと思っておりますので、強みを活かす成長戦略が私個人的には優先度は高いのかなと考えております。計画の位置づけとしては一応4つはフラットというふうに考えております。

また、このコロナのような危機的な状況もあつたりですとか、人命に関わる災害の部分とかもありますので、回避戦略というのもまた逆に重要な部分であるのかなというふうにも感じております。確かに優劣付け難いのが現状ではあるのですが、強みは活かしていくべきだというふうに考えます。

また、さらに目標1～5の優先度といいますか、確かに目標4の部分「持続可能なまちづくり」に搭載されている施策が多いよね、ということでのご指摘ご意見かと思いますが、ここにつきましてはやはり町民アンケートの部分でも多かった、というのも事実なんですけど、

町民の皆様の生活に直結する分野が非常に多くございます。道路であり、住居であり、上下水道、町のインフラに関わるジャンルが多くございます。

さらに庁舎内の各部署、それは建設部であったり、土木であったり、建築であったりあるんですが、こちらの部署からもインフラの老朽化ですとか、そういった部分で多く課題が出されております。そういった経過からどうしても施策の項目が膨らんでしまってるというのは事実であります。

かといってここが最優先という、目標ごとの優劣というのは私たちはつけておりません。あくまでも順番に並べて並列というふうに考えております。

最後になりますが、より学校教育等も含めて、個別の計画についてということになります。我々現在作っている総合振興計画につきましては、今後まちづくり10年の方向性を示す大切な計画と認識しておりますが、すべての施策項目について、より細かく個別に詳しく書くことは、実はかなり不可能に近いところになっております。やはりそれぞれのジャンルで持つ都市マスター計画ですとか、それぞれの個別計画ごとに詳細な目的、目標、具体的な内容というのは書かれるべきと考えておりますので、その表現の仕方、実は我々も非常に苦労しています。

今回お示したこの目標別計画、目標ごとに1枚ずつお示ししていますが、実はこの下に所管から出てきた非常にボリュームの多いものが出てます。いっぱい課題が整理されているんですが、それをもう少しボリュームを整理して皆さんにお示しできる状態にしたいなというふうに考えておまして、それは次の審議会までの我々の作業かなというふうに考えておりますので、本当はこの下にいっぱい課題がまだまだあるというふうに認識していただきたいと思います。

それをお示しする際には、我々としても、PDCA、目標値を設定して、KPIを設定して、達成状況を評価する仕組みですとか、あとは我々行政だけの課題ではなく、町民や地域の方々には何ができるんだというアクションプランみたいなものも、一緒に表現できればと考えておりましたので、次の審議会に向けてその辺をしっかりとお見せできる状態にしていきたいなというふうに考えております。答えになってないかもしれませんが、以上です。

Q 委員

今、方向性ということで示されて、こうやって皆さんと共に審議しているんですけども、それが「よし、じゃあこの方向性で行こう。」ってなったらやっぱりそこを実現するための具体的な策が出てくる、それが次回だというふうに伺いました。やっぱりそういう具体的な策が出てこそ、例えば5年後にそれを振り返ったときに振り返りができるのかな、というふうに思うんですね。

例えば、何度も言っておめんなさい、学校教育の充実というところに、じゃあ何が出てくるのか、じゃあそれが本当に5年間かけて出来たのかというのを、具体が無いとなかなか振り返られません。充実できたかな、評価してください、など難しくなると思います。だからやっぱり次の審議会が大事になってくるのかなと思います。

Q 委員

今、他の委員と事務局のやり取りを聞いていた中で、ちょっとだけ気になっていたことがムクムクと膨らんできたので発言させていただきます。

アンケートその他ワークショップなどから洗いざらい出した強み弱みなどは、非常に具体性がある良いデータだなと思ったのですが、最終的に SWOT の分析で立てた戦略の時に、ちょっと逆にまた抽象化してしまっている部分を感じまして、事務局の方の説明からは成長戦略を、できれば強みを活かして優先したいということだったんですが、見ていた中でちょっと成長戦略のいくつかが抽象的過ぎるのかなというふうに感じて、この資料を見たときにですね、成長戦略に対してちょっと自信のない部分とか、いまいちイメージができない部分があるのかという不安をちょっと感じてました。

もしもその成長戦略を優先させていきたいというのであれば、今後個別の所管からの要望だったり意見だったりというものの整合を今後図っていくのであれば、この SWOT 分析での戦略の部分はもっともっと具体的に、もうエグいくらいの内容でグリグリグリっと突っ込んでおいて、それに対して個別の所管がどう判断するか、成長でいくのか、こっちでいくのか、っていう議論が活発になるように、ちょっとこの戦略の内容に関しては、ちょっとエグみのあるくらい具体的なことを盛り込んだほうが議論は進みやすいような気がします。

A 事務局

ありがとうございます。確かに、成長戦略に位置付けているものの、パンチ力といいますか、もう一歩二歩踏み込んだ表現というのは非常に理解できます。

我々も役場内の庁舎の各部署と調整を図りながら、この戦略がここで良いのか、というような調整はすでにやらせていただいているんですが、所管の意見だけではなく、今回は町民アンケート、ワークショップ、町民目線に立った SWOT 分析を重視して施策を位置付けてくださいというのは、内部で非常にお願いを強くしているところです。

次回までにさらにこの辺の磨き上げをかけられるような状態でお示しできればと考えておりますので、お時間を少しいただければと思います。

Q 委員

役場の出す文書なので、いろいろ突きたがる人もいるかと思うんですが、議員さんだったりネガティブな町民だったりとか、そういった所を気にするのであればこそ、これは分析に基づいた戦略なんですという言い訳が立つので、この辺でちょっとこう、パンチのあるとかフックのある表現を盛り込んでもらえると、こちらも楽しくなるかなと思います。

A 事務局

ありがとうございます。まさに委員の仰る通り、そのための分析でもあり、事業の計画の裏付けとなる SWOT 分析だと我々は認識しておりますので、その辺ちょっとぶれないようにしっかりとお示しできるようにいたします。

A 事務局

どうもありがとうございます。まさしく、委員の仰ったところ、事務局が言った通りなんですけど、やはりこういった議論を踏まえてですね、やはりこういった回数を踏まえて、僕らがやっぱり一番望むのが、せっかく作るんだったらみんなに見てもらおうや、みんなで協働のまちづくりしていこうや、っていうのが根本的にあります。

まさしくこういった時間を大切にしながらですね、いろいろ皆さんに読んでいただけるような、そして実行できるような計画を作るためにですね、先ほど私冒頭で言いましたけれども、期間の延長をお願いしているところでございますので、また、まだまだ僕らはこれで良いとは思っていません。これがまだ作り込みもしなきゃならないし、まだまだもっと簡潔にわかりやすく書いていかなきゃならない部分、もっと重点的に書いていかなきゃならない部分、当然そこは出てきますので、そういった中で少しの時間頂戴して皆さんのご意向をいただければなと思いますので、引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。